

## 第10回男女共同参画フォーラムに参加して

常任理事・医療関連事業副部長 伊藤 利道

今回のフォーラムのメインテーマは「医療界における男女共同参画のさらなる推進に向けて～10年で医療界における男女共同参画は進んだのか～」というものである。男女共同参画委員会の意見は、(はっきりとは述べられていないが)「少しは進んだが、まだまだそのスピードは遅い」というものだと思える。男女共同参画がなかなか進まないのは、平成24・25年度の男女参画委員会答申にもあるように、「男性の圧倒的優位で諸事業を推進してきたわが国の社会風土や、それも当然とする社会通念には、女性の視点を反映させようとの意識が依然として希薄であり、男性の意識改革がまず必須である」からである。

座談会で登場した黒川清教授も、「自信のない男たちが作り、自分たちの組織を守っているのが、今の日本の社会。『ダメな男と、がんばる女性』のせめぎ合いが続いているのが日本」と、日本社会の在り方が問題であると指摘した。

しかし、「社会通念を変える」のは、あまりにも壮大な目論見であり、せいぜい「社会通念が変わる」のを「少し早める」ことしかできない。その意味では、この委員会の種々の活動は、とても素晴らしいものだった。特に、女性医師支援センターは女性医師にとって実際に役立つ活動をしている。道医の女性医師等支援相談窓口も藤井部長の指導のもと、全国的にも注目される実績を出し続けている。

また、男女共同参画委員会では、本年2月「男女

共同参画についての男性医師の意識調査報告書」をまとめた。これは全国の臨床研修病院1,068施設にアンケートを出し、6,946名の回答をまとめたものである。その中で、労働時間をみると「12時間以上15時間未満」が全体の62.4%であり、回答者の9割以上が「仕事の比重が多く、家事や育児にかかわれない」と答えている。男性医師が忙しすぎて、ワークライフバランスがとれていないわけである。

本報告書では、自由記載欄があり、日医のホームページで閲覧することができる。その中に、「男女共同参画の最大の障害は、男性の働き方にあると思います。まず、それを見直さない限り、先には進まないと感じています。育児中は可能な限り家に帰り、自由になる時間はほとんど子どものために振り分けました。乳児期の入浴、離乳食、沐浴はもちろん、休みごとの外遊び、家族での旅行など。自分自身の時間は全くといって良いくらい取れませんでした。他の物に代えられぬ充実した時間であったと思います」との意見があった。このような男性医師が多くなれば、かなり女性医師の負担が軽減するのだが。

さて、フォーラムの後、懇親会に出席した。他の会と違い、女性が多いので華やかであった。ただ、若い女性医師が少ないような気がした。男女共同参画委員会は今後も当分の間、活動するわけであるから、これからは若い女性医師の方も委員になれる仕組みがあればいいかなと思いつつ、会場を後にした。

## お知らせ

### 「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」の一部改正について

◇地域保健部◇

このたび、厚生労働省医薬食品局血液対策課が作成する「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」の一部が改正されましたので、お知らせいたします。

改正点等の詳細は下記URLをご参照ください。

記

[http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/140814\\_02.html](http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/140814_02.html)